

令和7年度 第2回下呂市環境審議会 議事録

日 時	令和7年11月12日(水) 午後1時30分から午後3時00分まで	
場 所	ふれあいセンター 3階 会議室	
出席者	<p>会長 下呂市森林管理委員会 委員長 伊藤 栄一</p> <p>副会長 (一社)馬瀬地方自然公園づくり委員会 会長 小池 永司</p> <p>委員 岐阜県 飛騨県事務所 環境課長 保木口 良成</p> <p>委員 下呂市連合自治会 会長 西 博志</p> <p>委員 下呂市文化財審議委員 遠藤 卓</p> <p>委員 下呂市農地利用最適化推進委員 杉山 裕</p> <p>委員 (一社)下呂建設業協会 理事 金子 健一郎(欠席)</p> <p>委員 下呂市商工会連絡協議会 副会長 河尻 和憲</p> <p>委員 (一社)下呂温泉観光協会 青年部 部長 日下部 孝</p> <p>委員 中部電力パワーグリッド(株)高山支社 総務グループ グループ長 平井 克己</p> <p>事務局 環境部長 中島 一栄</p> <p>環境部 環境対策課長 波多野 一樹</p> <p>環境対策課課長補佐 浅里 健</p> <p>環境対策課主任主査 土屋 歩</p> <p>業務受託者 (株)テイコク 永縄 芳之 田澤 義之 児玉 光樹</p>	
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 協議事項 ・第三次下呂市環境基本計画(素案)について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>	
議事要旨	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事 第三次下呂市環境基本計画(素案)について ○第三次下呂市環境基本計画(素案)第1節～第6節 事務局 計画期間につきましては、前回の審議会で「2030年度までの5年間」と説明したが、「2035年度までの10年間」に変更した。途中、2030年を目途に適宜見直す予定である。</p> <p>テイコク 説明 委員 第6節の基本目標2について、下呂市の生物多様性がどれほど失われているか、守っていくべき下呂市特有の生物についてなど、より具体的な記述があるとよい。</p> <p>テイコク 可能な限り市民向けに分かりやすい内容で整理する。 委員 下呂市の動植物について、貴重な生物や特別天然記念物の指定につ</p>	

	<p>いては把握しているが、生物多様性の実態についての調査はされていないため進めていく必要があるのではないかと。第2節の初めに生物多様性の記述があるが、目標や施策として生物多様性に関する記述がほとんど含まれていないため、生物多様性という視点についても考えている旨の姿勢を示せると良い。</p>
委員	<p>森林の環境保全について、低山を整備し市民が登山することによって森林に興味を持つようになるかと考える。森林を体験することで森林の大切さ、山の大切さ、災害がどのように起こるかといったことを学べるため、その関連付けを考えながら、取り組んでいただきたい。</p>
委員	<p>「市民」という言葉には、一個人としての市民と、市民団体としての市民の2つの意味があり、それぞれの役割は異なるため、「市民」の定義づけが必要ではないかと。</p>
委員	<p>計画の中で述べる「市民」がどのようなものであるかを、計画を見る市民に意識づけできるように整理していくのが望ましい。</p>
委員	<p>計画の期間を5年から10年に変更した中で中間年度に見直しを行うとしているが、計画中の数値目標については随時検証を認識でよいかと。</p>
事務局	<p>数値目標については、今後は毎年審議会を開催する予定であり、その中で数値目標の進捗状況を報告できればと考えている。</p>
<p>○第三次下呂市環境基本計画（素案）第7節～第10節</p>	
テイコク	<p>説明</p>
委員	<p>第7節が地球温暖化対策実行計画（区域施策編）であるが、本計画において実行計画が示されているのは第7節のみである。第6節までに記載した目標や施策の体系を実現化するために行う内容を、本計画に掲載しなくてよいか疑問に感じている。他部局の取組みも含めて本計画に掲載する必要があるのではないかと。</p>
委員	<p>針葉樹と広葉樹で森林の吸収量は異なるか。</p>
委員	<p>樹種ごとに成長特性が異なるため吸収量が異なる。計画において、森林吸収源対策は人工林がメインと考えているが、現実では広葉樹の自然林の吸収量を正確に把握していないのではないかと。</p>
委員	<p>環境（災害対策）としては針葉樹よりも広葉樹の方が良いのではないかと。</p>
委員	<p>地球温暖化対策の実行計画となると、下呂市で把握している人工林をベースに考えていく必要がある。下呂市の森林の約60%が人工林であり、手を入れて管理できることを踏まえると森林吸収源としては非常に意味があるという計画の建付けにはなっている。ただし、生物多様性への配慮や景観も含めると、人工林を自然林へ戻すということを計画で述べる必要があるのではないかと。生物多様性の話も絡めると、木材生産林から自然林（環境保全林）に変えていくということを、計画に落とし込んでいく必要があるかと考える。</p> <p>エネルギーの転換によるゼロカーボンシティ実現に向けての取組みの中でも、小水力というのが前段に出てくるが、実行計画には記載がないため、下呂市の特性からするとこれから取り組んでいくべきことだと考える。現段階で取り組んでいなくても、今後やって行くということも含めて、より意欲的な計画としていただきたい。そうすることで、結果的に市民にとっての環境だけでなく、流域や地球環</p>

	<p>境への影響も含めて、下呂市として環境に対してどのように取り組んでいくかという広い視点を示すことで、対外的にもより積極的な計画であるアピールにもなる。環境に取り組んでいるまちとして、世界から注目される観光地として位置づけられるとよいという思いがある。</p>
委員	<p>この10年間で観光客の層も大きく変わった。それに対応する観光産業も大きく変わってきており、自然も含めた森林の環境というのはこれから大きく変わるため、対応できる計画となると良い。</p>
委員	<p>計画に掲載する内容については、担当部局の考えもあるため議論も必要である。</p>
委員	<p>カワウが魚を食べてしまうという被害があまり取り上げられておらず、環境の変化を捉えられていない印象である。このようなマイナス面をどのように解消していくか、具体的な対策は困難だが、取り組んでいくという記述は必要ではないか。</p>
委員	<p>課題把握の中で近年の自然環境の変化について触れて、数字目標の設定は困難だが、課題解決に向けて取り組んでいく旨の記載が必要である。一方で他部局との調整が必要なため、可能な範囲で計画に盛り込んでいただきたい。</p>
委員	<p>環境に対する全体計画のため、具体的に決まっていないことを書きづらく他部局との調整が済んでいないかもしれないが、下呂市らしさを感じられる計画にできるとよい。例えば、御嶽の国定公園の指定（3月予定）、小坂のバイオコークスの活用、オオサンショウウオの保護等を盛り込めないか。次の総合計画に載せられるような内容を掲載することで、今後の予算が獲得しやすくなるということもあるのではないか。</p>
委員	<p>市民、市民団体の活動を支援し、いろいろな人が参加できる枠組み作りも必要と考える。</p>
委員	<p>商工会長としての立場では、環境基本計画はまちづくりの一環の重要な要素であるが、商工、観光だけでなく教育が最も重要と考える。「教育」のみでなく「共育」が重要であり、環境を子どもに教えるばかりではなく大人も環境を体験するということを盛り込んでいただきたい。</p>
委員	<p>農地の整備について環境負荷の少ない有機農業・低農薬栽培の普及促進とあり、目標としては良いと考えるが、農業委員会の代表という立場からすると、現実的には農地を大きくするもしくは大規模な農業によって農業の生き残りが図れる。このことがいかに浸透できるか、年に1回の進捗管理で把握できるかについて、事務局に意見を伺いたい。</p>
事務局	<p>今回提示した計画は素案のため、大規模農業によって農業の生き残りを図れる点について、実情を伺った上で計画に反映していきたいと考える。</p> <p>下呂市としてゼロカーボンシティ宣言をしたこともあり、地球温暖化対策が前面に出てきているが、あくまで地球温暖化対策を包含した計画であるため、大枠は環境基本計画であることを踏まえうまくまとめられないかと考えている。委員の皆様から頂いた意見について、全部を計画に盛り込むかについては協議が必要だが、可能な限り盛り込んでいく考えである。進捗管理について、PDCAサイクルが数値目標であることに捉われがちだが、それだけではなく、年に</p>

	<p>1回の審議会開催を通して現状について話し合える場としていと考えている。</p> <p>委員 PDCAで数値目標の進捗管理として毎年確認するだけでなく、次期環境基本計画の見直しに向けての情報共有、特に、委員のそれぞれの視点から情報を出し合うことが重要ではないか。そうすることで、今回の計画改定のように1年間で取りまとめるのではなく、5か年計画で改定を行うことができるのではないか。その点、委員の皆様や事務局にはご協力をいただきたい。</p> <p>委員 弊社としても脱炭素ということで2030年までに50%減、2050年に100%減の目標に向けて取り組みを行っている。本計画についても、ゼロカーボンシティの実現に向けて全体として大きくまとまっていると感じる。</p> <p>委員 長期的な視点で、次の世代に今の環境をどのようにして残していくかということ踏まえた計画であることが重要。ごみの減量、再エネ導入などがなかなか進んでいない中で、計画が絵に描いた餅とならないようにはしたい。</p> <p>委員 時間の制約もあると思うが、今回の改革策定のみでなく、第4次環境基本計画にも向けてこの計画を充実させていくような方向性の種を埋めておくというのではないか。10年先にはより良い計画となっているよう、委員の皆様からはいろんな意見をいただきながら計画を充実させていければと考えている。</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
--	--